

## UVSOR40周年記念行事報告

表題の記念行事を12月1日―3日の3日間にわたり、岡崎コンファレンスセンターとオンラインのハイブリッドにて開催しました。

初日は渡辺所長のご挨拶、文部科学省基礎基盤研究課長西山氏の祝辞に始まり、記念講演会として6件のご講演をいただきました。その後の祝賀会では地元愛知12区よりご選出の衆議院議員青山周平様にもお越しいたいただき、応援のメッセージをいただきました。歴代のスタッフやユーザーの皆様との温かな懇談であったという間の2時間でした。二日目からは、年1回開催している定例のユーザー成果報告会を記念行事に組み込み、UVSOR

シンポジウム2023を開催いたしました。あわせて第6回次期施設建設検討会として、我々の目指す生命科学と光科学の異分野融合の実現にむけて、特別企画講演「バイオ系における光科学の展開」を設けました。バイオ系の光計測分野を牽引されている7名の先生方にご講演をいただき、パネルディスカッションで目指すべき方向性について科学目標と組織論について議論を深めました。

UVSORの40年は1983年の11月10日にいわゆる初点を発振してからの、放射光施設の運転期間をカウントしたものです。今回、40周年記念冊子として、これまでの「40年の冒険、これからの

挑戦」を発行しました。さらに次期計画の具体的な内容について、コンセプトデザインレポートを合わせて発行いたしました。いずれもpdf版にてweb上で公開しております（QRコード）。今後のUVSORの挑戦を是非とも応援していただき、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

最後に、1年間にわたる準備段階からお世話になった関係者の皆様にこの場をお借りし御礼申し上げます。

(解良 聡 記)



各レポートのリンク先



## 放射光60周年記念シンポジウム報告

日本の放射光利用研究は、60年前に田無市の東京大学原子核研究所の電子加速器に寄生する形で始まりました。その成果を踏まえて、東京大学物性研

究所が電子加速器を入射器として使った世界初の放射光専用小型施設SOR-Ringを建設し、1976年から利用がはじまりました。さらに1982-3年に

世界最高エネルギーの専用施設として、高エネルギー物理学研究所のフォトンファクトリー（PF）、化学分析研究を志向した分子科学研究所のUVSORが

それぞれ本格的な稼働をはじめました。現在では大型施設SPring-8を筆頭に各地の施設で活発に放射光利用研究が展開されています。さらには2023年末には最新の放射光施設NanoTerasuからのファーストライトが無事供されました。

このような日本における放射光60周年を祝し、国際シンポジウム“60 years of Synchrotron Radiation in Japan (JPSR60)”を、2023年10月24日(火)-25日(水)の2日間にわたり日本放射光学会主催・分子研共催という形で岡崎コンファレンスセンターを会場として開催しました。JPSR60の現地参加者数は106名でした。プログラム詳細はJPSR60のウェブページをご覧ください。またYouTube配信でも171名を超える方に視聴頂きました。YouTube配信された内容は現在も視聴できます。一日目および二日目の配信へのリンクはこちらです。

<https://jsrr.smoozy.atlas.jp/en/jpsr60>

<https://www.youtube.com/watch?v=1sW3Qg4M7fQ>

[https://www.youtube.com/watch?v=gaZ\\_c6G5Wng](https://www.youtube.com/watch?v=gaZ_c6G5Wng)

海外からの日本に縁のある放射光科学のレジェンドの方や国内の第一線で活躍されている方々をお呼びし、放射光分野の今後の展開についても皆様と共に議論を深めました。海外の諸先生には日本の研究者との交流の思い出や放射光利用での国際連携における日本のコミュニティの貢献について紹介いただきました。日本の放射光黎明期から最先端を引っ張ってこられた諸先生には歴史的にも貴重な写真や資料を交えてこれまでの放射光の歩みとこれからという視点で、エールをいただきました。二日目には、最新の放射光科学および次世代に向けての動向として、各分野の最前線の先生方に熱いご講演をいただきました。分子研・UVSORにかかわりの深い先生としては、Marie-Emmanuelle Couprie教授(SOLEIL)にはUVSORの技術職員の皆さんとの自由電子レーザー(FEL)の共同研究のお話をさせていただきました。Han Woong Yeom教授(POSTECH)には博士課程学生時代から利用したPF BL-18A, BL-7A, BL-7B、さらに

UVSORやHiSORでの研究のお話をいただき、韓国の放射光、特にARPES研究の最先端の話題を講演していただきました。菅先生(阪大)にはMax-Planck-InstituteやSOR-Ringでの実験から現在のUVSORでの協力研究までご紹介いただきました。

懇親会には多くの交流が見られました。特に、海外招待講演者の方々が参加者との情報交換、ポスターでの議論に熱心になり、終了時間を過ぎても交流が続いていた光景は、準備に携わったものとして、嬉しいことでした。

本行事でご講演を頂きました先生方、ご出展くださいました企業の皆様、日本放射光学会事務局の佐藤亜己奈様、中村千佳様、JPSR60プログラム委員会アドバイザーの小杉信博KEK物質構造科学研究所長、石川哲也理化学研究所放射光科学研究センター長、朝倉清高北海道大学触媒科学研究所教授、JPSR60プログラム委員の皆様方、会場準備等でご協力いただきましたUVSOR関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

(横山利彦・松井文彦・阿部仁\* 記)

\*KEK 物構研/茨城大学 准教授

